

作成日：R5 年 11 月 20 日

令和 5 年度第回 高松圏域自立支援協議会 全体会議事録

日付	令和 5 年 11 月 20 日(月)
時間	14:00 ~ 16:00
開催会場	香川県青年センター
参加機関等	高松市医師会、香川県東讃保健福祉事務所、香川県精神保健福祉センター、障害者生活支援センターたかまつ、障害者生活支援センターあい、相談支援センターりゅうん、地域生活支援センターこだま、香川県立川部みどり学園、地域活動支援センタークリマ、障害者地域生活支援センターほっと、ライブサポートセンター、香川県立高松支援学校、香川県立香川中部支援学校、香川県立聴覚支援学校、香川大学教育学部付属特別支援学校、高松公共職業安定所、障害者就業・生活支援センター共生、障害者就業・生活支援センターオリーブ、三木町福祉介護課、直島町住民福祉課、高松市総合教育センター、高松市障がい福祉課、香川県障害福祉相談所、香川県発達障害者支援センター『アルプスかがわ』、garyu、高松市社会福祉協議会訪問介護事業所、かがわ総合リハビリテーション成人支援施設、ナザレの村、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点 順不同 37 名参加

議題 1： 各部会活動報告	
議事	就労支援部会) ・労働関係、教育関係、障害者就業・生活支援センター、就労継続支援 A 型事業所などで構成。イベント委員会では相談会を実施し、雇用フォーラムを計画中。広報委員会では、高校などを卒業する学生の中でスムーズに支援に繋がるような体制づくりに向けて実施。就労選択支援事業についての確認を行ったりしている。就労移行支援事業所の集まりや、就業継続支援 A 型事業所の集まりの機会。就労選択支援事業について協議を行い、どのように対策を取っていくのかを検討する。

精神保健福祉部会)

・保健医療福祉の連携企画として、会場に集まり、グループワークなどをしてきたが、今後は高松市内の精神病院に部会メンバーが訪問し、インタビューをさせていただき、一緒に取り組む企画についての意見を集め、R6年度に実施する方向。高齢分野の精神障害がある方への支援について、高齢分野との連携としてケアマネジャーとの合同研修を企画(1月に実施予定)。ピアサポーターに関するリーフレットを作成し、ピアサポーターに各関係機関に配布していただいた。ピアサポーターからの活発な意見もあり、来年度の活動に生かしたい。

相談支援部会)

・今年度は GSV を再開。地域の様々な課題が抽出されて、その課題を部会で取り組む。災害時の計画作成におけるモデル事業を通して、相談支援専門員がプラン作成時に災害時への取り組みを盛り込めることが出来るようにモデルケースを提出し、下半期はその取り組みの報告を通して、各相談員が取り込んでいくことが出来るように協議する計画。外部講師を招聘して研修会をする計画もあり。個々の資質の向上も含めて年間を通して活動している。

身体障害者支援部会)

・災害時の取り組みとして災害弱者ネットワーク高松と連携し、11/6 開催のフォーラムと一緒に取り組む計画。ピアサポーターの会と部会員との交流を図る機会を設けていただいた。部会の構成メンバーについても固定化している部分もある為、視覚や聴覚の支援者との連携を図ることを目的として、一度情報交換を行うこととしている。起震車を高松の事業所で実施する計画であったが、地域住民も加わることが条件としてあったため、地域交流の一環として共催できるところがあれば実施したい。

知的障害者支援部会)

・8機関で活動に取り組んでいる。強度行動障害者へのスーパーバイザー派遣の周知の強化(生活介護事業所、児童対象の事業所など)に向けて改定したチラシをメールで配布。日常生活自立支援医療、成年後見制度についての改めて理解を深めるための研修会も実施。来年度も継続して取り組みたい。来年度、部会(年に2回)に当事者に参加してもらい、意見をもらいながら現状や課題などについて整理をしていく計画。親亡き後に関する支援のリストについて協議会のホームページにアップしている。

発達障害部会)

・高校生ガイドブックを公立中学1校(モデル校)にて実施予定。まるごと福祉相談員との連携のきっかけ作りとして、基幹相談支援センターの研修と共同開催を行った。こども部会との連携として、児童発達支援職員に向けた研修

にこども部会も参加。下半期に来年度の取り組みを検討し、構成メンバーを選定していく作業を進める。

こども部会)

・災害時のモデルケースとして、2名の要援護者名簿登録を済ませた。来年度に向けて児童発達支援、放課後等デイサービスの連絡会を1月10日に実施予定。医療を必要とする児童がサービスを中々受け入れられない現状と、保育所等訪問の事業の活性化等をテーマに実施する。直島町については町内に事業所が無く、宇野や高松に通ってこざるをえない。どのような取り組みが出来るのか、幼児学園と連携を図るために情報交換を実施予定。協議会のホームページに事業所の情報をアップしていたが、視覚障害児者に向け、音声ガイダンス機能を導入している。ホームページの情報についても随時更新する予定。

医療的ケア部会)

・訪問看護については、これまで医ケア児を対象としていない事業所も参集していただけることから研修を実施。養成コーディネーターの資質向上に向けたフォローアップ研修を実施。スーパーバーザー派遣事業を実施。

居宅サービス事業所連絡会)

・圏域内のヘルパー事業所の横の繋がりを年に3回実施。いずれの回も参加者数が少ないのが課題。移動支援については利用者からのニーズはあるのにヘルパーが足りないために実施できない背景と対策について事業所目線で検討をした。連絡会の中での活動について、多くの事業所に知ってもらうための取り組みが必要。

当事者団体・家族会連絡会)

・防災グッズを障害者の状況に応じて対応する取り組みや障害者手帳をスマホにアプリを導入し、障害者手帳をデータ化するアプリについて共有。

B型事業所連絡会)

・事業所数が多く、障害者の工賃向上や重度化、高齢化など課題が複雑化しているため、連絡会として立ち上がった。見学会と座談会を定期的実施している。座談会は現場の職員向けの内容とした。見学会を行い、活発な意見交換会を実施する。1月の座談会は経営者などによる実施

事務局)

・災害児の取り組みを行政にも参加してもらい、福祉との共同で行った。  
・意思決定支援の応用研修を実施。具体的な技術を習得する機会とする虐待研修についても小規模の事業所を対象として実施。この2つを柱として権利擁護の部会の発足ができないか事務局として検討中。  
・在宅にしながら親亡き後をどう支えるかについて検討を続けてきた。グルー

	<p>グループホーム等の大きな人の集まりの中で地域の課題を検討すると共に、グループホームから地域につなげていくためにどのような取り組みをしたいかを検討。</p> <p>移動支援の調査や人材育成についても、県自立支援協議会においては検討している</p> <p>&lt;質疑応答や感想&gt;</p> <p>・中部支援学校  いろいろな視点から部会に分かれての検討だと思われる。グループホームについては、保護者の関心が高いため、部会などの集まりが生じることに非常にうれしく感じている。</p> <p>・香川県精神保健福祉センター  知的障害者支援部会の方で強度行動障害のスーパーバイザー派遣事業について知りたい。行動障害などがあって受け入れ事業所が対応方法について助言を得たい。</p> <p>⇒個別な専門的なアドバイスをすることもあったり、事例検討会議への参画などは検討している。内容に応じてバイザーとしてお願いする方は検討している。早い段階でサポートを受けることによって、より重度化を防ぐことが出来るため、啓発も行っていきたい。金融機関から銀行の窓口で障害がある方が来られて、入金、出金をしたかったが、うまく対応できず、お客様が怒り出してしまったことがあり、ご本人が満足する対応について知りたいとの要望があり対応した。</p>
--	---

<p>議題 2： 令和 6 年度の協議会について</p>	
<p>議事</p>	<p>協議会の運営強化について</p> <p>現在 11 の部会などがあり、活動内容について意見をいただいた。協議会の中でも同様の認識があり対応していく必要。部会全体での協議や共通理解が難しい部会もある。わかりにくいという意見。</p> <p>より広い意見をもらえる事業所などに参画してもらうことも求められる。</p> <p>わかりやすい運営への取り組みの一つとして会則を決めていきたい。これらの会則を部会の中で共有して協議をする。</p> <p>来年度より、権利擁護部会を設置していく計画。来年度以降は、会長、副会長は交代となる。会則の設定によって、来年度1回目の連絡会は例年より開催時期が早くなることが想定される。</p> <p>会則において事務局の設置が承認されれば、そのメンバーについても設置し</p>

	ていく。
議題3： 災害時対応について	
議事	<p>検討部会における報告。6月から10月までに 4 回程度検討会を実施。今回は水害と土砂災害を中心に、各部会からモデルを抽出した。8名のモデルケース(内、1名は辞退)。各ケースの概要について報告。それぞれのエリアも障がいも自治会の加入の有無、家屋の状況などバラバラではあったが、避難の考え方や、垂直避難の状況、個別支援計画の作成。しないよりはした方がよいが、どう判断すれば良いのかということは今後も整理をしていく必要があるだろう。個別性が高いことをご理解いただけたのではないかと思う。</p> <p>三木町からの報告          避難行動要支援者名簿について、年に1回広報に挟み込み全戸配布し、必要な人は福祉課に提出 641 件提出。個別避難計画 421 件。1月 20 日の広報に全戸配布する予定。個別避難計画について、高齢世帯において難病による人工呼吸が必要な方がおり町としてモデルケースとして取り組んでいる。ケアマネジャーや防災担当、福祉担当などで自宅訪問し、現状の聞き取りや必要な物品などの聞き取りを行い、各事業所やアドバイザー、難病担当の件の保健師などが集まり、第1回も作成会議を実施。避難先としては、病院の受け入れが可能な場合は医療機関へ、難しければ一時避難先として防災センター避難。(非常電源がある)自主防災組織等地域住民の協力を得られるようにつながり作りのきっかけとなった。今後は、策定委員会で協議した内容をもとに、行政で計画を作成し、次回の会議で参加者に確認してもらう方向で整理している。</p> <p>直島町の報告          登録者は20名ほど。現在、社協のケアマネや居宅事業者に支援制度について再度案内している状況。11月初旬、難病の避難訓練に保健師や当事者、家族にも参加してもらい、実際の避難訓練を実施したことで、必要な物資などの確認が出来た。</p> <p>サービスを提供する側として          避難支援者としてヘルパー事業所を指定しているケースもあったが、どういことなのか:ヘルパーが支援している時間の方が長く、ヘルパーが訪問していない数時間の間に悪天候の場合には次のヘルパーが来るまでは残ってもらう等の対応を検討している。</p> <p>小学校支援学級に通っている子については、学校の中ではそれぞれの災害を想定して避難訓練を行っている。こどもには事前に伝えずに避難訓練を実</p>

施する等の工夫はしているが、学校を離れたときには、本人に話をするが、家庭任せになっているのが現状。支援クラスを利用する児童の家庭は地域との繋がりが少ないこともある。

モデルケースで検討することはイメージしやすく良いと感じた一方で、状況によって流動的な部分もあり、どの程度の計画を立てていくのか、その後の実行性がある計画とする工夫が必要かと思った。本人自身が取り組めることを一緒に考えていく過程が重要。

災害対応の手引きなどを障害がある方が集まる場などで活用するなど活用の仕方を工夫すると良いだろう。

発災時の身の安全の確保がまず優先で、その後にライフラインが回復しながら生活がどのように復興するのかがイメージ出来ないため、この取り組みがどのように展開していくのかを教えてもらいたい。

相談部会では、過去にも災害時の計画を個別に作ろうとする取り組みはしてきたが、全ての人に行き渡っていない現状がある。優先順位をつけるのも一つだが、当事者が自分で自分の命を守れるような意識付けを行っていく必要もあるだろう。誰かが助けてくれるだろうと考える当事者もいるため、モデル事業が出来たことによって分かってきたことを相談支援専門員にも今後について考えるきっかけとなった。

連絡会においてどのような設備が整っているのかを確認している状況。職員が入れ替わってしまうと引き継がれていないこともある為、定期的なチェックが必要と感じている。夜間を想定した火災訓練を実施して、その際には地域の消防、警察、住民にも訓練の様子を見てもらった。その際に、利用者が避難した先が消防車両の進入を阻む位置であった等、いろいろな視点の意見を反映することが必要だろう。

# 【 令和5年度第2回 高松圏域自立支援協議会全体会 】

日時 令和5年11月20日(月) 14:00~16:00  
場所 香川県青年センター

## I. 開会 (15 分間程度)

自己紹介

## II. 各部会活動報告 (45 分間程度 各部会 3 分程度+質疑応答 10 分程度)

就労支援部会) かがわ総合リハビリテーションセンター成人支援施設

精神保健福祉部会) 障害者地域生活支援センターほっと

相談支援部会) 障害者生活支援センターたかまつ

身体障害者支援部会) 障害者生活支援センターあい

知的障害者支援部会) 相談支援センターりゅうん

発達障害部会) 発達障害者支援センター「アルプスかがわ」

こども部会) 地域生活支援センターこだま

医療的ケア部会) 一般社団法人 garyu

当事者団体・家族会連絡会) 相談支援事業所ライブサポートセンター

居宅サービス事業所連絡会) 地域活動支援センタークリマ

B 型事業所連絡会) 社会福祉法人ナザレの村

事務局) 高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点

## III. R6 年度の協議会について (10 分間程度)

## IV. 災害時対応について (50 分間程度)

高松圏域自立支援協議会災害時の取り組み報告

三木町、直島町の災害時対応について

意見交換

## IV. その他

	団 体	職名	会 員	備 考
1	高松市医師会(かがわ総合リハビリテーション病院)	医師		
2	香川県東讃保健福祉事務所	主任		
		主任		
3	香川県精神保健福祉センター	主任		
4	障害者生活支援センターたかまつ	所長		
5	障害者生活支援センターあい	相談支援専門員		
6	相談支援センターリゆうらん	主任相談支援専門員		
7	地域生活支援センターこだま	センター長		
8	香川県立川部みどり園	地域生活支援課長		
9	地域活動支援センタークリマ	相談支援専門員		
10	障害者地域生活支援センターほっと	相談支援専門員		
11	医療法人社団 ライブサポートセンター	管理者		
12	香川県立高松支援学校	教諭(支援教育部長)		
13	香川県立香川中部支援学校	校長		
		相談支援部長(教諭)		
14	香川県立聴覚支援学校	教諭(進路指導主事)		
15	香川大学教育学部附属特別支援学校	進路指導主事		
16	高松公共職業安定所	統括職業指導官		
17	障害者就業・生活支援センター共生	主任就業支援ワーカー		
18	障害者就業・生活支援センターオリーブ	センター長		
19	三木町 福祉介護課	課長		
		社会福祉士		
20	直島町住民福祉課	課長		
		課長補佐		
21	高松市総合教育センター	指導主事		
22	高松市障がい福祉課	福祉事務所長		
		認定係長		
23	香川県障害福祉相談所	主任		
24	香川県発達障害者支援センター「アルプスカがわ」	主任技師		
25	一般社団法人garyu	相談支援専門員		
26	高松市社会福祉協議会訪問介護事業所	管理者		
		サービス提供責任者		
27	高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点	センター長		
		副センター長		
		相談支援専門員		
28	かがわ総合リハビリテーション成人支援施設	科長		
29	社会福祉法人ナザレの村	統括管理者		



## 協議会の運営強化について

現状、協議会には 11 の部会等があり各部会ごとに活動しているが、課題として以下のような事柄について指摘を受けている。

- ・部会の活動内容が一部のメンバーで決定され、部会内での協議ができていない。
- ・年度の計画、報告（予算、決算も含め）も上記同様、一部で決定され、部会内での協議に至れていないので、所属しているメンバーからもわかりにくい。
- ・部会の構成メンバーが拡がらず、少数の一部のメンバーにより運営される状態が続いている（拡がっていく構想がみえない）。
- ・部会の活動に、より積極的に関与したいと考える機関からは、どう関与すれば良いかわかりにくい。
- ・各部会の会則がないので、上記のようなことが起きているのではないか。

上記を受けて

年度当初より来年度部会体制を各部会等で検討してきたが、今年度いっばいで協議会会則内に部会の設置に関する大枠を明記するとともに、各部会の内規を作成してもらい、R6 年度新しい部会体制でスタートするのに合わせてその会則を適用することにしたい。

主な内容)

### ○協議会全体

- ・会長、副会長、運営会議委員、会員について、定数、任期（2年/再任を妨げない）を決める。
- ・事務局を位置づける。
- ・事業報告、事業計画、予算、決算、リーダーとサブリーダーの交代については、運営会議と全体会に諮る。

### ○各部会

- ・各部会のリーダーとサブリーダーは定数、任期（2年/再任を妨げない）を決める。
- ・事業報告、事業計画、予算、決算、リーダーとサブリーダーの交代については、各部会内で承認をとり運営会議に諮る。
- ・部会への参画を希望する者への取り決め（参画しやすいもの）をつくる。
- ・上記以外についてもできるだけ部会員と情報を共有し、必要な協議を行うことを記す。

No.	住居地	リスク	障がい	部会モデル	第1回	第2回	第3回	第4回
1		洪水2m 高潮2m		身体障害者 支援部会	<p>ケースの概要を共有 &lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対象者が避難する際、必要な支援者数の確認</li> <li>民間の企業やビル等の事前同意</li> <li>他事業所への協力要請</li> <li>ケースによってはため池のハザードマップの確認</li> <li>在宅時の想定だけでなく、通学、通勤、通所等生活パターンの中の複数を選定しておく必要性</li> </ul>	<p>本人の自宅訪問し、同意を得、アセスメントを実施。 本人：自宅避難希望。自宅内移動に不自由は無いが、停電などへの備えは出来ていない。 避難所や避難ビルに一人での移動は困難だが、避難を支援してもらおう知人は近所にはいない。 &lt;今後の課題&gt; 避難時の動線等や近隣への協力の必要性あり。</p>	<p>前回、検社会の後、本人からメールが来て、8月8日にモデルケースを辞退したいとの申し出があった。 浸水するデータがあるが、自分の地区は危険なところではなく、自分よりも危険な地域に住んでいる人を支援してもらいたいとのこと。 水害だけではなく、地震や落雷なども生じるため、起きる確率の少ないことを考えたくはない。 今後、撤回を提出していただく予定。</p>	<p>第4回 辞退を申し出た方については、「同意撤回届」を記入いただいた。これまでの経緯の記録は残しても良いとの意思確認が出来た。</p>
2		洪水1m		知的障害者 支援部会		<p>避難場所まで1kmあり、居住マンションの4階に垂直避難する方向で検討。 実際に階段を上がる動作を確認した。 &lt;今後の課題&gt; 民生委員が積極的に活動しているエリアであり、繋がりがつくり必要。 川が氾濫した際には1m浸水域</p>	<p>民生委員と連絡を取った。避難計画についてよくご存じだった。地域の見守りチーム(障害者高齢者を含めて日頃の見守りが必要。平業で見守りがあるということは、災害時にも支援が必要というところ)が、地域の見守りも推進したいところ。社協、民生委員が多いが、地区住民。)という地区内の支援にも加わっているとのことであり、協力もいただけることとなった。区内に同見守り活動に参加をされている方がおり、その方の協力も得られることとなった。今後、顔合わせを行う予定。避難支援者の欄にも、1番目は同団地内の方、2番目は民生委員の方が協力いただけることとなった。</p>	
3		洪水0.5m 高潮2m		精神疾患 福祉部会		<p>アパート2階で叔母(要介護2)と生活 &lt;今後の課題&gt; 避難所への確認や、民生委員との繋がりが必要。 災害時における動き等、要確認。 叔母を含めた対応の検討が必要であり、叔母の担当ケアマネにも協力を仰ぐ</p>	<p>隣接している住居に生活している民生委員と話をした。 自治会に未加入のため、自治会の協力を得ることは難しい。 安否確認や声かけなどは民生委員が協力。 避難については、自宅から避難所まで徒歩5分だが、叔母70代に持病もあるため、移動は難しい。自宅待機。 &lt;今後の動き&gt; 民生委員との顔合わせを今後計画している。</p>	<p>民生委員と連絡を取り、避難支援者としてのどこまで協力をもらえるか等を話をすると可能な範囲(安否確認など)で了承を得た。避難支援者に、記名することも了承を得た。その内容を登録の際には備考として記入した。</p>
4		洪水1m 高潮2m		相談支援部 会		<p>アセスメントを実施。日内変動により、有事に動くことが難しいというところもある。 &lt;今後の課題&gt; 服薬は必須であり、2階に食料やお薬の備蓄の工夫などが必要。2階への垂直避難が現実的 事前避難であれば、妹宅に母からの促しで移動することも現実的であり、要確認</p>	<p>そのほかの書き込みが、服薬なども多い為、欄が狭いのでどのように記入していけばよいか、悩んだ。 避難自体は、地区指定避難所への避難もあるが、難病があり、即行動することに困難さがあるため、母の車での移動となる。 &lt;今後の動き&gt; 留意事項の文章で、避難経路における留意点の確認、垂直避難する際の確認、妹宅への移動に関する確認を進めている。 留意事項はいろいろつかつかのバターンがある為、その内容を記入。想定される各ケースの避難内容について記入。 服薬の確保については課題。</p>	<p>9月末に登録届を提出。母の友人や知人の名前がよく出てきており、地域の繋がりがあると感じて、回数など内容を絞って連絡を取っていない。服薬について、回数など内容を絞って記入することとした。市から返信された後、ケアマネとも連絡をとる計画。担当者会議の際に情報共有する方法も良いが、障がいと介護の担当者会議の頻度が違い、なかなか合同ですることは出来ないが、ケアマネは毎月訪問しているのだから、イメージを合わせれば情報共有する機会があるだろう。</p>

	<p>洪水 0.5m 高潮 2m</p>	<p>子ども部会 (サービス利 用有)</p>	<p>アシメントを実施し、避難行動要支援者名簿登録の記入済み。 兄弟のため、一人1枚であり、コピーして作成。 垂直避難が良いかと検討していたが、自宅アパートの屋上に上がることは難しい。 避難場所が ホール徒歩1分。 家からいつも見えている建物なので大丈夫だろう。 &lt;今後の動きなど&gt; 避難する際に、薬を持参しないと指示が入りにくい。薬は母がよく変更している。 ゲームなどがあれば、環境の変化にも比較的対応できる可能性あり。協力者は見つからず、民生委員への連絡を今後行う。</p>	<p>母親に内容を確認してもらい、名簿を提出している。避難支援者は両親の名前しか書けないということで、地域との繋がりを作ろうとしたが母が望まなかった為、つなげなかった。自治会には入っていないが、避難訓練には参加したことがあるように、定期的に参加してもらえたらと思う。</p>
5	<p>洪水 5m 高潮 3m</p>	<p>子ども部会 (サービス利 用無)</p>	<p>3~4階建ての建物の、1階に居住。 近辺に高い建物あまりない。 &lt;今後の課題&gt; 母にはアシメントが出来ているが、子どもたちは数年たっていない。 再度、自宅を訪問し、周囲の環境等、要確認。 居住アパートの屋上への避難の可否を調べてみる。</p>	<p>9月末に市に名簿登録を提出。避難支援者は隣の方がなってくれた。母が頼みに行くこと快く引き受けてくれた。1名のみの記入して提出。この方も垂直避難の方が安全なので、マンシヨンの屋上への申し込み等が利用可能な高さかどうかを確認しておくように母には伝えていた。大家や管理会社などには連絡を取っていない</p>
6	<p>洪水 0.5m 土砂災害 高潮 1m</p>	<p>基幹相談支 援センター</p>	<p>アシメントを実施。 避難時支援員について近所の方への依頼は、相手の負担感が大きくなると拒否的。 &lt;今後の課題&gt; 家族以外の支援に関する受け入れに時間をかけることが必要なケース。</p>	<p>避難支援者はひとまず空白で申請する話もしたものの、実際の名簿登録申請を提出するという判断には至らなかった。今後、まるとご福社相談員と同行訪問しながら、地域の支援者とのつながりづくりを進める中で、来年度に向けて申請手続きを進めていくことが出来るように進めていくこととする。</p>
7	<p>洪水 0.5m</p>	<p>災害弱者ネ ットワーク</p>	<p>周囲の道路より50cm位低い土地。 災害弱者ネットワークに自らモデルケースとして名乗り出ており、同意書作成。 &lt;今後の課題&gt; が近いため、避難先としての活用を検討。 小学校、中学校については、遠方であり、トイレの設備が整っていないことから現実的な避難先にはなりにくい</p>	<p>9月初旬に新型コロナウイルスに感染してしまい、モニタリング&amp;避難訓練の話をしようと思っていたが、9月下旬にモニタリングすることとなったが、雨が降り出してから動くことは難しいので、雨が降る前に移動することの必要性をお伝えして、たこやきパーティーなどの話をすると目を輝かしていたため、来てくれるのではないかと手伝え。ヘルパーが協力者になってもらうという事業所のBCOPの中にも大雑把ではあるが、盛り込んでいる。</p>
8			<p>拒否感依然と強いが、モデル事業自体には同意を得ており、今回はまるとご相談員とともに訪問の可否を確認 &lt;今後の動き&gt; 支援者無記入でひとまず登録するように働きかける。 時間をかけて少しずつ地域の支援者とのつながりづくりを行う。</p>	<p>避難支援者として、ヘルパー事業所で登録。 避難場所として 小学校などがあるが、福祉避難所であるの方が近い。その間に、事業所がある為、いったん事業所に避難してもらおう。 避難経路、留意事項を記入し、名簿の調査票の方は提出し、本人の手元に返ってきているのではないかと思われる。 8/15の台風7号の際、通院日でヘルパー同行で受診し出かけた。 当事者自身が自分の身を守ろうとする意識改革が必要と訪問看護スタッフから意見が出ている。 &lt;今後の動き&gt; 避難の空振りが多く、「たこやきパーティー」等、空振りて終わ</p>



## <検討会を通して得た意見等>

- ・8 ケースの地域担当のまると福祉相談員を集めて、1 時間ほどの災害に関する研修を予定している。8 月以降、まると福祉相談員に連絡し、民生委員とも繋がるように連携体制を整っていく。
- ・避難計画をモデル的に作成する大きな意義としては、障害の状況は比較的継続するため、1 回作成しておく、数十年大きく計画内容を変更しなくてもよいケースがある。専門職が計画を作成し、地域の方にこういう方がいることを知ってもらうことが必要だろう。国の方向性としてはプラン報酬として 7000~8000 円を想定しているビジョンを出しているため、障がいを取り出してプランを作成していく。
- ・避難計画は、地域の方たちと共有できることが必要なので、情報量が多すぎても難しい。行政が一括して把握することは現実的に難しい。個々の事業所で詳しい内容は把握。
- ・登録対象者については、⑧以上の条件に準じる者として広く障害がある方と捉えると良いのだろう。
- ・登録に関する年間の動きとしては、11 月初旬に、登録者に情報提供。9 月末までに提出してもらえると、今年度配布する情報に反映することができる。
- ・要支援者名簿には登録しているが、計画はされておらず、本人自身も登録したかどうか覚えていない可能性もある。個別避難計画対象者の中で、声かけでよいのか、具体的な支援が必要なのか、優先順位など整理されていないが今後こなれてくるだろう。
- ・避難訓練をするのであれば、コミュニティと相談しながら、より狭い地域の中で落とし込むことが出来れば、よりよいだろう。
- ・垂直避難の場合、そのことを計画の中に明記しておく。
- ・避難支援者 2 名が記載できない場合でも登録は出来る。どうしても出来なかった場合には「〇〇自治会」と記入して登録した場合もある。実際に助けてくれるのは近隣の人。現実的な形を作っておくことが必要だろう。
- ・まると相談員→民生委員→近所の人と広がっていくが、うまくいった場合やうまくいかなかった場合等記録しておくのも良いだろう。
- ・民生委員や自治会によって温度差が多い。理解していただくために、自立支援協議会というクレジットを活用すると良いだろう。配布物や説明をするときに使用する資料など「自立支援協議会」と明記すると良いだろう。
- ・垂直避難の場合も、車椅子などの場合、具体的にどのように上がるのか等の具体策も検討していくことが必要だろう。シート上で車椅子を数点の持ち手で上げられるようなものもあるが、狭い階段を上げるための技法を検討する必要もあるだろう。
- ・介護用のおんぶひも、つけてしまえば 60kg 位までであれば男性のヘルパーであれば搬送可能。5~6000 円くらいで購入可能。女性では中々難しい。災害時のよいやり方を見いだしていくことが必要。

モデルケース検討会を通しての振り返り等

- ・要支援者登録の申請を9月中という縛りがあったが、個人情報の開示に関して少し難色を示された為、時期をせかすような感じでは無く、一度持ち帰って家族で話し合った上で、了承を得たこともあり、無理強いをすとうまくいかなかったのでは無いかという印象がある。

- ・形にすることを優先して、細かい中身を検討することが不十分だった。家族の中に要支援者がいるばあいに、具体的にどのように動くのか等についてももう少し整理が出来れば良かった。

- ・本人が困った場合のことを想定してても、いざという時には誰かが助けてくれると考えるタイプで、風邪引きの際に誰も助けてくれないという経験をした際に、全てのサポートを切ろうしたようなことがあったが、意識付けして行くためのサポートが必要と感じた。支援者と本人の困りごとの誤差があると感じた。

支援者と本人の関係性によって、台帳に登録するかどうかの結果は変わってくるため、関係性を必要とするだろう。災害を通して、本人と地域のヒトトの繋がりを確認することが出来て良かった。複数の方にプランを立てた際には、毎年更新していくことはなかなか難しいのでは無いかと思った。

- ・今回は児童世帯とのやりとりであったが、本人たちを加えての話し合いが出来なかったのは課題。焦って登録だけしたという感覚もある。

- ・誰かが助けてくれるという意識が当事者の中にあり、自分で助かるという意識付けが必要であると思うが、中々理解してもらえないという現状があった。参加できる当事者にもこういう場にきてもらうことも必要なのではないか。災害弱者ネットワークとして活動している方でも待ちの姿勢となるため意識改革が非常に大切。

- ・高松って誰も助けてきてくれない。その時に施設や事業所の力も必要、地域の力も必要、災害ボランティア等、各分野で点としてやりとりをしているが、それが面となればよい。災害時の要援も護者支援はここ20年、交代していくばかり。が故に法的に義務としている。要援護者は行政、災害ボラは社協などと分けた頃から後退している印象。障害者や要援護者を助けることが出来るのは300M以内の人。消防や行政などに連絡してもすぐには避難してもらえないわけではない。地域の人に連絡が出来る自治会等に入っている人は助かったりする等、災害時の生死の大きな分け目になることがある。地域の中の協力体制の有無の違い大きい。被災後にほったらかしになる。行政自体は細かい状況まで目配りは出来ない。だからこそ、生活圏のコミュニティが有効になる。登録をとにかく進めていく。自分で登録できている人は比較的元気な人。自分で登録できていない人＝地域で「気にかけておくべき人」である為、その2つが重なり合うことが必要であり、そのためには、相談支援専門員やケアマネが利用者に登録を促していくことが必要。

- ・対象者が何かあれば誰かが助けてくれるんやろうという思いがある。今回辞退してしまうという結果になったが、本人にどのように説明していくのかも難しさがあった。

・モデルケースとなった方たちはまだ経験を通してリアリティが生まれただろうが、経験をしなければ現実感も持ちにくいだろう。それぞれの関わりなどが見えるかして説明が出来れば良い気がする。マニュアル的な物があっても良いのでは無いかと思う。演習的にやりながら伝えられたら良いなあとは感じている。フローみたいな物があってもよいのではないか。

・個人情報の保護がある為、行政からは何ももらえないので、お菓子を持って要援護者として登録を促すなどの行動を続けている地域もある。

・フィールドワークを持って、架空になるかもしれないが、計画を立ててみる等の演習を実施してみる等。当事者も参加。

・年に1回はこのような災害を取り上げた話し合いを行うことが必要。

・フローチャートのどこまでがゴールなのか、必要な書類のチェックリストなどがあるとわかりやすい。

【令和5年度 部会活動進捗報告】

No.	部会	R5年度 目標	4月～6月の目標	4月～6月の振り返り	7月～9月の目標	7月～9月の振り返り	10月～12月の目標
1	就労支援部会	<p>○イベント委員会 しごとサロンたかまつとジョブチャレかがわを同時開催・雇用セミナーの企画・実施</p> <p>○広報・調査委員会 高校大学プロジェクト・小豆島について情報交換 イベントの広報強化</p> <p>○就労移行支援事業所等委員会 移行事業所視察・訓練内容確認・制度情報共有・事例検討</p> <p>○A型委員会 A型事業所視察・訓練内容確認・制度情報共有・事例検討</p> <p>○就労アセスメント委員会 特別支援学校のB型希望者のアセスメント実施 就労選択支援事業検討</p>	<p>・就労相談会の検討。チラシ作成。</p>	<p>R5.5.1 全体会実施。昨年までの進捗及び今年度の予定について確認した。</p> <p>R5.5.17 イベント委員会、広報調査委員会、全体会を実施した。イベント委員会では、ジョブチャレかがわの企画検討した。R5.6月末にチラシ完成した。広報・調査委員会では、令和5年度の計画確認し、情報発信の方法についても、熊本市の情報発信(KP5000)について情報共有した。全体会では、香川県社会就労センター協議会担当者から説明した。</p> <p>R5.6.29 就労移行支援事業所等委員会を実施。現状報告、政省令事項（社会保障審議会障害者部会R5.6.23)について情報共有。職員スキル等について議論した。</p>	<p>R5.8.21 就労相談会に向けた動きとして、チラシ配布等広報活動、当日の動き確認。広報・調査委員会では、就労選択支援事業検討に向けた情報共有等。就労移行支援事業所等委員会では、職員スキル向上に向けた検討等。</p>	<p>R5.7.19 イベント委員会、広報調査委員会、全体会を実施した。イベント委員会では、ジョブチャレかがわの企画検討した。広報調査委員会では、高校大学プロジェクト等に加えて。就労選択支援事業等について確認した。</p> <p>R5.8.21 ジョブチャレ香川を実施し、13名の相談があった。</p> <p>R5.9.20 就労移行支援事業所等委員会があった。岡山の特別子会社の方を招いて、事業紹介等を行った。</p>	<p>【10-12月目標】R5.12.1 就労アセスメント会議の開催 R5.12.20 就労移行支援事業所等委員会</p> <p>【10-12月途中経過】R5.11.8 イベント委員会、広報調査委員会、全体会を実施した。イベント委員会では、雇用セミナーについて検討した。広報調査委員会では現状の課題等を報告した。</p> <p>【今後の方向性】R6.1.24 就労選択支援事業・B型の一時併用についてセミナー(就労支援部会内部向け) R6.2.26 企業向け雇用セミナー R6.3月 就労選択支援事業・B型の一時併用についてセミナー(就労支援部会主催) その他 会議(イベント委員会、広報・調査委員会、全体会等)の開催</p>
2	精神保健福祉部会	<p>①精神障害者支援関係者で医療と福祉の連携企画を、参加のハードルが上がり過ぎないように継続予定。</p> <p>②前回の研修をブラッシュアップさせ、高松市内の主任介護支援専門員を対象に研修を企画する予定。</p> <p>③作成したパンフレットを活用した普及啓発を予定。</p> <p>④引き続き、地域移行支援サービスに限らず、病院内の退院支援の取り組みについて部会内で共有。必要に応じて部会からのアクションを起こす方向で検討していく。</p> <p>⑤引き続き、コア会議を年3回実施予定。進捗と方向性について適宜、確認する。</p> <p>⑥令和5年度のスーパーバイザー派遣事業の方向性に合わせて、チラシを作成したうえで、各関係機関に周知する予定。</p>	<p>①連携企画を検討するため、医療機関にインタビューを実施する。</p> <p>②高松市内の主任介護支援専門員を対象に研修を企画する。「介護保険への移行について」(パンフレット)の高松圏域バージョンについては検討。三木町の対象者については個別対応するため、パンフレットには記載しない方向。</p> <p>③各担当が調整し、説明会等を実施した。</p> <p>④退院支援における課題が共有できた。</p> <p>⑤コア会議を実施できなかった。</p> <p>⑥SVのチラシ検討中。</p>	<p>①インタビュー結果について項目ごとにWGメンバー内で共有。</p> <p>②「介護保険への移行について」(パンフレット)の高松圏域バージョンについては検討。三木町の対象者については個別対応するため、パンフレットには記載しない方向。</p> <p>③各担当が調整し、説明会等を実施した。</p> <p>④退院支援における課題が共有できた。</p> <p>⑤コア会議を実施できなかった。</p> <p>⑥SVのチラシ検討中。</p>	<p>①引き続き、インタビュー結果についての共有しながら、企画の検討を継続する。</p> <p>②主任介護支援専門員研修については1月下旬に開催予定。</p> <p>③普及啓発活動を継続していく予定。</p> <p>④引き続き、課題を共有しながら、共通する項目を整理する。</p> <p>⑤7月にコア会議を実施。進捗の確認と今後の部会の運営体制についても検討していく。</p> <p>⑥チラシを作成し周知を行なう。</p>	<p>①引き続き、インタビュー結果についての共有しながら、企画の検討を実施。</p> <p>②主任介護支援専門員研修については1月に開催予定、内容についても検討。</p> <p>③パンフレットを用いて普及啓発活動を実施。合わせて、ピアサポートへの興味についてもアンケートを行なった。</p> <p>④病院内の課題を共有しながら、共通する項目を整理する。他圏域への退院支援時の対応について確認。</p> <p>⑤7月にコア会議を実施。進捗の確認と今後の部会の運営体制についても検討していく。</p> <p>⑥チラシについて確認を行なった。</p>	<p>①各病院への働きかけを行ないつつ、より企画を医療機関の意見も加えて具体的なものにしていく。</p> <p>②主任介護支援専門員研修を令和6年1月23日の開催。</p> <p>③今後のピアWGの活動についても検討予定。次年度の研修についても検討する予定。</p> <p>④引き続き、課題の共有を継続していく。</p> <p>⑤11月にコア会議を予定。進捗の確認と今後の部会の運営体制についても検討予定。</p> <p>⑥チラシを完成させ、案内・周知を行なう。</p>
3	相談支援部会	<p>○R4年度に抽出された地域課題の解決に向けて、WG等を作り、解決に向けて取り組む。</p> <p>○災害時、緊急時対応の計画作成に関するモデル事業に参加し、それを参考に、地域を巻き込んだチーム支援のスキルを身に付ける。</p> <p>○GSVを定期的に行い、相談支援専門員の相談支援スキルの向上を図るとともに、圏域内の相談支援専門員同士の協力体制の構築等を促進・浸透させる。</p> <p>○先進県等から講師を招聘し、相談支援スキル向上のための研修会を実施する。</p> <p>○R6年度の部会長等の改選に向けて、部会員の参加意識をより高めるための、運営体制の見直しを図る。</p>	<p>○GSVを定期的の実施できるように準備をし、スタートさせる。</p> <p>○災害時モデル事業にケースを提出する。</p>	<p>○今年度、GSVを隔月で実施することと、事例提供の順番を機械的に決めて、実際に1回実施することができた。最初だったので、少し戸惑う場面もあったようだが、経験の長いファシリテーターの進行により、なんとか実施出来た。今後は、回数を重ねることで、メンバーのスキルの向上と、日常的にGSVを行う習慣を身に付けていってもらうことを確認した。</p> <p>○メンバーの中から事例を提出していただき、モデル事業に参加できた。</p>	<p>○災害時モデル事業の進捗を確認しながら、部会員全員で共有する。</p> <p>○課題解決WGを視野に入れた、課題抽出にとりかかる。</p>	<p>○災害時モデル事業に相談支援部会から事例を提出いただいた相談支援専門員には、避難時にどう動くのか等の打ち合わせをご本人と進めていただき、検討会にも随時参加いただき、進捗確認と今後の取り組み等について検討いただいたが、その詳細についてはまだ部会内では共有できていない。</p> <p>○隔月でGSVを定期的の実施できているが、その中から課題を抽出するまでには至っていない。</p>	<p>○災害時モデル事業で取り組んだ内容について、部会内で共有し、各部会員が担当している障がい者の災害時の避難について、具体的に考えて行けるような取り組みを検討する。</p> <p>○これまで実施したGSVの内容を集約し、課題を抽出し、来年度に向けてWG等で検討するべき事柄を探る。</p>



No.	R5年度 目標	4月～6月の目標	4月～6月の振り返り	7月～9月の目標	7月～9月の振り返り	10月～12月の目標
4	<p>引き続き災害時の身体障害者を中心とした移動に困難のある方を対象に活動を続けたい。</p> <p>また、ピアサポーターとしての活躍の場があるかどうかメンバーと検討していく。ピアサポーターの高齢化に伴い、新たなピアサポーターの確保が必要な状況がある。視覚障害者でピアサポーター登録をしてくださる方を探したい。</p> <p>講演会</p> <p>今年度開催できなかった災害時に関すること、当事者から支援者へ向けた講話の実施を再調整する</p> <p>課題の確認</p> <p>ニーズ調査の結果から災害時の次にニーズの高い課題を再確認し、取り組み内容を定める。</p> <p>部会の構成メンバーの検討</p> <p>視覚障害や聴覚障害の専門性の高い機関との連携を深める</p> <p>取り組みをおこない、必要に応じて参加いただくことも検討する。</p>	<p>災害時モデルケースについて支援センターたかまつの担当者と連携して作成をすすめたい。</p> <p>講演会について</p> <p>災害弱者安心ネットワーク定例会への参画継続していく。</p> <p>ピアサポーターについて</p> <p>基幹中核での活動や取り組みを参考に今後の活動参考にしたい。</p> <p>起震車体験について</p> <p>関心のある施設へ打診をして年度内の開催を目指したい。</p> <p>ニーズ調査結果の再検討について</p> <p>支援センターたかまつにてアンケート集計からの課題選定をすすめる</p>	<p>災害時モデルケース利用者宅へ同行訪問し現状の聞き取りを行う。</p> <p>災害時に必要なものや準備しておくべきものについて本人と話し合った。</p> <p>起震車体験について</p> <p>入所施設利用者への起震車体験実施に向けて日程調整をすすめている。</p> <p>次年度部長任期終了のため次年度の活動についても打合せを行っている。</p>	<p>災害時モデルケースについて必要に応じて訪問や災害時の準備をすすめたい。</p> <p>起震車体験について</p> <p>おおよその開催日時と場所を決定していきたい。</p> <p>また、マックスバリュが福祉イベントへの協力をいただける話があるため打合せを行いたい。</p> <p>ピアサポーターについて</p> <p>参加可能な研修があれば参加し、活動内容の勉強をしていきたい</p>	<p>①災害時の対応について</p> <p>○災害弱者あんしんネットワーク高松との連携・協力</p> <p>・9/3香川県防災会議及びさぬき市防災会議において総合防災訓練実施。その中でメンバー（障害者）の送迎などのお手伝いを実施。12月の防災フォーラムに向けて協力して行っている。</p> <p>○起震車体験については入所施設に依頼するが、消防署で地域交流のために実施は可能だが、施設での避難訓練ではNGとで入所施設に打診中。</p> <p>②ピアサガについて</p> <p>10月にピアサガと身体障害者部会メンバーとの交流会が決まりそれに向けて進めていく。</p>	<p>○防災について</p> <p>12月に災害弱者あんしんネットワーク高松主催の防災フォーラムに向けて一緒に準備を進めていく。</p> <p>○ピアサガについて</p> <p>10月に実施される交流会について積極的に参加することによって顔が見える関係性で、より近い関係性を築いていく。</p> <p>○専門性の高い機関との連携について</p> <p>11月中旬に香川県視覚障害者福祉センターを訪問し、お互いに行きやすいように協力をお願いする。</p>
5	<p>○部会開催を年4回で予定。各ワーキングでの協議を継続するほか、内容により部会全体で取り組みを行う。</p> <p>○まずは、昨年度の積み残しを早急に進める。</p> <p>○今年度は、意思決定支援と強度行動障害に関する取り組みを更に強化するものとし、研修の開催や周知活動を実施していく。</p> <p>○強度行動障害については、スーパーバイザー派遣事業を当部会で運営していくことを提案。スーパーバイザーとして活躍して頂いている方を部会の新メンバーとして依頼し、層を厚くして協議を進めていく。</p>	<p>○部会を開催し、今年度の取組みおよび体制について確認する。</p> <p>○昨年度の積み残し、今年度の取組みで可能なことから進めていく。</p> <p>○強度行動障害スーパーバイザー派遣事業を運営していく。</p> <p>○災害時対応モデルケースを決定し、運営会議で報告。担当相談支援専門員に対応を依頼する。</p>	<p>○4/7コア会議を開催し、今年度の部会運営について、方向性を確認する。</p> <p>○5/18部会開催。運営、取組みに関する事項をメンバーで確認する。今年度はワーキンググループに分かれず全体で、2ヶ月毎の部会開催を予定。取組み事項を確認するとともに、年間スケジュールを作成した。</p> <p>○7/19部会開催までに各担当者で進めておくこととして、</p> <p>①県社協との情報交換の計画を決定</p> <p>②緊急短期入所利用に関する準備リストをHPに掲載</p> <p>③スーパーバイザー派遣事業の周知メール</p> <p>また、来年度から知的障害がある方を部会に参加してもらうために、参加依頼する方のイメージ像を考えておくこととした。</p> <p>○災害モデルケースについては、担当相談専門員が協議会の災害チーム検討会に参加してくれている。</p>	<p>○7月、9月に部会を開催する。</p> <p>○進捗状況の確認と詳細の計画を決定していく。</p> <p>○県社協との情報交換会を実施する。</p> <p>○予算の確認、来年度の体制づくりについても部会開催の都度話題に挙げ、常に意識して進めていく。</p>	<p>○7/14および9/12に部会開催。主に以下の点について、協議を進めた。</p> <p>①スーパーバイザー派遣事業の周知メール</p> <p>9月末現在で4件の派遣依頼あり</p> <p>②社会福祉協議会との勉強会（日常生活自立支援事業・成年後見人制度について） → 9/12実施</p> <p>③過去に作成した社会資源冊子の共有</p> <p>④災害時のモデルケース報告</p> <p>⑤来年度の体制、取組み（当事者の参加）について</p> <p>⑥緊急短期準備リストはHPへのアップ作業中</p>	<p>○進捗状況の確認</p> <p>○来年度の取組みとしている、当事者の部会参加に向けて、当事者の選定、会議の進め方等を決定する。</p> <p>○社会福祉協議会との勉強会についての振り返り</p> <p>○まだ協議できていない事項（支援学校の課題）について整理する。</p> <p>○来年度の体制、取組み、予算について検討を進める。</p>

No.	部会名	R5年度 目標	4月～6月の目標	4月～6月の振り返り	7月～9月の目標	7月～9月の振り返り	10月～12月の目標
6	発達障害部会	<p>1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チラシの再送付などPRを再実施する。</li> <li>・モデル校を依頼して、実際に生徒に対して使用し、課題の考察を行う。</li> </ul> <p>2) について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談員と2回目の情報交換会を実施して、定期的な会合の在り方について話し合う機会をもつ。ケース検討を都度実施することや、まるごと相談員がつながっているネットワークに障害者自立支援協議会のことを知ってもらう取り組みにつなげていく。</li> </ul> <p>3) こども部会と共同で、放課後等デイサービス事業所のスキルアップに関する取り組みを検討する。</p>	<p>1) 高校生ガイドブックに関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度チラシを作成してPRを実施したが、学校現場での利用には結びつかなかった。</li> <li>・今年度以降の取り組みについて、定例会の中で検討する。</li> </ul> <p>2) まるごと福祉相談員との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の目標はほとんど達成できなかった。</li> <li>・相談員に、発達障がいや発達障害部会のことを知ってもらい、必要な連携ができるためにできることを定例会で検討する。</li> </ul> <p>3) こども部会との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・左記について、部会で確認したうえでこども部会長に提案する。</li> </ul>	<p>1) 高校生ガイドブックに関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生だけでなく中学生にも枠を拡げて打診していく。</li> <li>・ガイドブックを増刷して、実際に高校で使っていくことを具体的に検討する。</li> </ul> <p>2) まるごと福祉相談員との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談員との情報交換会を、基幹相談支援センターが実施している会に相乗りさせていただく形で進めることになった。</li> </ul> <p>3) こども部会との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・左記の通り提案した。</li> </ul>	<p>1) 高校生ガイドブックに関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校を選定し、実際に生徒に対して使用する勉強会の方法などを決定する。</li> <li>・ガイドブックを増刷して、勉強会を実施する。</li> </ul> <p>2) まるごと福祉相談員との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談員との情報交換会を実施する。</li> <li>・その後の連携の具体的な場面や方法を案出して、相談員側に提案する。</li> </ul> <p>3) こども部会との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下半期に放課後等デイサービス事業所スタッフ対象の研修と情報交換会を実施するので、その準備をこども部会と進める。</li> </ul>	<p>1) 高校生生活ガイドブックに関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校の選定にあたって対象を中学校まで広げて打診。</li> <li>・現在、高松市立の中学校1校と実施に向けて検討を進めている。</li> </ul> <p>2) まるごと福祉相談員との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談員との情報交換会を実施した。</li> <li>・発達障害が疑われる、相談員が対応に困難を感じている地域住民に対する支援を検討する場（ケース会など）に今後積極的に参画することを双方で確認し、また実際に参画した。</li> </ul> <p>3) こども部会との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後等デイサービス事業所スタッフ対象の研修と情報交換会を10月に実施した。こども部会からも参画。</li> </ul>	<p>1) 高校生生活ガイドブックに関する取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校での使用を実施し、結果を検討する。</li> </ul> <p>2) まるごと福祉相談員との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケース会などへの参画を複数回実施する。</li> </ul> <p>3) こども部会との協働</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度以降の放デイ事業所の情報交換会の実施についてこども部会と協議する。</li> </ul> <p>4) 部会の構成員など組織の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は、高松市障害福祉課／香川こだま学園／アルプスカがわ／基幹相談支援センター中核拠点のメンバーで運営している。活動内容を再検討するために、メンバーも再検討する。</li> </ul>
7	こども部会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会の目的の再確認</li> <li>・コア会議を開催</li> <li>・本部会の開催</li> <li>・事業所連絡会の開催</li> <li>・直島町の療育体制についての検討</li> <li>・発達障害部会と医ケア部会との連携</li> <li>・災害時のモデルケース（児童）</li> <li>・任期満了に伴うR6年度に向けた新体制について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部会を開催し、今年度の活動案について部会員より意見をもらう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回部会を以下の日で開催した。 6月22日（水）10:00～11:30 場所：香川こだま学園園舎</li> <li>H30年の部会発足から現在までの活動経過の報告とR5年度の事業計画（案）を説明し、部会員より意見をもらった。今年度からは、高松市の児童発達支援センター香川こだま学園もメンバーに加わった。久しぶりの開催で活発な意見交換が出来て、有意義な会であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児発・放課後デイ連絡会開催に向けての準備を行う。</li> <li>・準備委員でコア会議を行う。（事業所の方2～3箇所に声をかける）</li> <li>・医ケア部会のリーダーの滝川さんと打ち合わせを行う</li> <li>・準備会を開き、具体的な開催日時や会場を相談する</li> <li>○直島町の療育体制についての検討</li> <li>・今後、どの様に進めるかを町役場の担当者と相談する</li> <li>○発達障害不快と医ケア部会との連携</li> <li>・児発・放課後デイ連絡会の準備を医ケア部会と連携しながら行う</li> <li>・発達障害部会のリーダーに高等学校で不登校やひきこもりになっている生徒に対する進路指導がどの様にされているのかについて情報をいただく</li> <li>○災害時モデルケース（児童）</li> <li>・9月迄にモデルケースの災害計画を作成する</li> <li>○R6年度に向けた新体制について</li> <li>・次年度のリーダーの候補の方に交渉する。</li> <li>○福祉サービスのアンケートの公表について高松市の担当者とは相談する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○災害時モデルケース（児童）</li> <li>・モデルケース2例の災害計画を作成し、要援護者名簿登録を行った。（9月末日）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○コア会議を開催し、児童発達支援・放課後等デイサービス連絡会開催に向けての準備会を実施する。</li> <li>○直島町の療育体制については、町役場の担当者を通じて直島幼稚園の担当者と連絡を取り、訪問日程や連絡会開催についての具体的に相談を行う。</li> <li>○10月10日に開催されるアルプスカがわ主催の放課後等デイサービス事業所を対象とした研修会に参加する。</li> <li>○10月2日に開催される災害時のモデルケース検討会に参加し、進捗状況を述べる。</li> <li>○R6年度の新体制に向け、部会長とサブリーダーの候補を決定し、運営会議で提案する</li> <li>○児童発達支援、放課後等デイサービス事業所情報を掲載している協議会HPに視覚障害の方向けの音声ガイド機能を導入する。</li> </ul>

No.	R5年度 目標	4月～6月の目標	4月～6月の振り返り	7月～9月の目標	7月～9月の振り返り	10月～12月の目標
8	医療的ケア部会	部会では、各分野の現場の課題を 持ち寄ってもらう。 昨年出された、地域の課題を大切 にし、訪問看護のワーキングを立 ち上げる。医ケア児(者)・重心 児(者)に関わっている訪問看護 師に横のつながりを持ってもら う。	第1回目の医ケア部会に参加して いただいた方々から、各分野の課 題を共有してもらうことができ た。保育教育分野では、保護者の 就労と、医ケア児の体調や医ケア 面で受け入れ体制を検討しなけれ ばならないと言った点、訪問看護 に関しては、児童に関わりがない 看護師の介入などそれぞれの分野 での課題はある。その一つ一つ、 どう解決していくのが良いかを考 える機会にはなった。	・訪問看護ワーキング主催 で、医ケアコーディネーター を取得した看護師を対象に、 研修会の開催 ・医ケアコーディネーターを 取得している相談支援専門員 を対象にした、フォローアッ プ研修の準備(今回はMSWか らの事例検討にしたい)	・訪問看護ワーキング主催で、医 ケアコーディネーターを取得した 看護師と相談支援専門員を対象に した研修を開催。実際重度心身障 害者を持つ母親から、相談員や訪 問看護師に期待すること、連携に 関してのお話をいただいた。 受講者は多くはなかったが、ずっ と医ケア児に関わっている看護 師、今後新たに関わろうとする看 護師などがいたので、参考になっ たようである。今回は、ZOOMと 対面のハイブリットでの研修とし た。	・医ケアコーディネーターを取得 している相談支援専門員を対象に した、フォローアップ研修を 12/14に開催予定。 ・県主催でフォローアップ研修を 開催しているが、圏域内での受講 者は少ない。医ケアに関する研 修は、継続して行っていく必要が ある。受講者を増やしていくこと も課題として検討していかねば ならない。
9	居宅サービス事業所連絡会	・連絡会を3回開催する。 第1回：7月12日(水)AM 加算について(様々な加算と 申請の仕方について) 第2回：11月15または22日 (水)AM 移動支援について 第3回：2月14または21日 (水)AM カスタマーハラスメントにつ いて ・コアメンバー会議を4回開 催する。 第1回：5月26日(金)AM 第1回連絡会について 第2回：9月 第1回のふり返 りと第2回連絡会について 第3回：12月 第2回のふり 返りと第3回連絡会について 第4回：3月 第3回のふり返 りと来年度計画について	1. 第1回コアメンバー会議を5 月26日に開催し、下記の内容の 協議を行った。 ・年間計画(左記)を作成 ・第1回連絡会の打ち合わせ 2. 第1回連絡会に向けて、講師 依頼、案内状の送付、資料の準備 などを行った。	1. 7月12日に第1回連絡 会を実施すること 2. 連絡会終了後、コアメン バーで直後の簡単なふり返り を行うこと。 2. 9月に第2回コアメン バー会議をzoomで開催するこ と。そこでは、第1回連絡会 の詳しいふり返りと、第2回 連絡会の打ち合わせ内容や役 割分担を行う。	1. 7月12日に第1回連絡会を実 施。テーマは「特定事業所加算 等、加算の取り方について」、参 加者は 名。 2. 連絡会終了後のふり返りで は、声が聞こえにくかったので会 場を広くした方がよい、参加者数 が少なかったため、市から再度案 内をメールしてもらってはどうか、 などの話が出された。 3. 9月6日にzoomにて第2回コア メンバー会議を実施。第2回連絡 会を11月15日に行うこと、テーマ は移動支援とBCPの整備について の2つにすることとなった。	1. 11月15日に第2回連絡会を実 施する。テーマは「移動支援を提 供しやすくするには?」「業務継 続計画(BCP)の整備、どうして る?」。 2. 12月にzoomにて第3回コアメン バー会議を実施し、第2回連絡 会のふり返りと、第3回連絡会に ついての打ち合わせを行う。
10	当事者家族会連絡会	・ホームページで各家族会の 紹介。 ・障がいの理解をしてもらえ る機会の検討。 ・障がい者差別解消法の啓発 活動。 ・マイナンバーカードや便利 なアプリの使い方講習。 ・購入した防災グッズを使用 した後に、本人の障がいに合 わせて必要な物をプラスし て、自分の防災セットを完成 させる検討会を実施する。	・購入した防災グッズを使用した 後に、本人の障がいに合わせて必 要な物をプラスして、自分の防災 セットを完成させる検討会を実施 する。	・7月20日(木)当事者団 体・家族会連絡会の実行委員 会を開催し、今後の具体的活 動方法を決める。	・R5年7月20日 当事者団体・家 族会連絡会 実行委員会 を実施。 ・(株)ミライロ ミライロIDに関 する質問を前もって集め た。 ・マイナンバーカードについて事前 に問い合わせた。 ①障がい者手帳との紐づけはされ ているのか→現在はされていない。 ②薬剤情報については登録され る前から の情報は記載されるのか→その 通り。 ③転職した場合は?→通常 の手続きに多少、日数はかかるが マイナンバーカードを持って行っ ての手続きは必要ない。	・R5年10月16日 第2回当事者団 体・家族会連絡会を 実施。内容①ピアサポーターの体 験談発表 4名 ②ミライロIDの説明 講師：(株) ミライロ 井原氏 (ZOOMにて) ③マイナンバーカードについて 講師：高松市役所 デジタル戦略課 以上の演目に、より多くの当事 者の方、ご家族の方、 支援者の方が参加していただける 事を目標とする。

No.	R5年度 目標	4月～6月の目標	4月～6月の振り返り	7月～9月の目標	7月～9月の振り返り	10月～12月の目標
11	<p>今年度より連絡会を立ち上げるにあたり、B型事業所を取り巻く環境はコロナ禍や物価高騰の影響を受け厳しい状況下にあるが、昨年度に引き続き様々な課題を抽出し検討した上で解決方法を見出していく。</p> <p>取り扱っていく主なテーマとしては、工賃向上、新規事業開拓・商品開発、共同受注、利用者の重度化・高齢化への対応、障がい特性に応じた専門的な支援など多岐にわたるが、事業所見学会、意見交換会（現場スタッフを対象）、座談会（管理職を対象）を各1回開催し、B型事業所全体の工賃向上や支援の質向上に取り組んでいける仕組み作りを構築していく。</p> <p><b>B型事業所連絡会</b></p>	<p>年間目標計画を達成するために、第1四半期としては事業所見学会や座談会を実施していくための打合せについて、実行委員会を開催し計画していく。</p>	<p>事業所見学会および座談会を企画開催していくために、まずはB型事業所が現在抱えている課題抽出を行うために、『高松圏域における就労継続支援B型事業所の「座談会テーマ」に関するアンケート調査について』を高松市障がい福祉課にも配信のご協力を依頼し、6月に実施した。</p>	<p>左記のニーズ調査の集計を基に、秋頃に開催予定の事業所見学会の実施要項に関して、8月に実行委員会を開催し取りまとめていく。また、事業所見学会を踏まえて実施を予定している座談会についても、併せて開催方法の検討を行っていく。</p>	<p>座談会および事業所見学会実施に関する打合せのための実行委員会を8/30（水）に開催した。</p>	<p>【10-12月目標】昨年度同様に、座談会および事業所見学会を開催し、事業所間同士のネットワークづくりや、工賃向上やより良い支援に関する情報共有を行える場の提供を目指していく。</p> <p>【10-12月途中経過】座談会（現場職員向け）を10/11（水）に開催し35名程の参加があり、①工賃向上について、②利用者の重度化・高齢化について、③精神障がい者への対応について、④作業中の支援について というテーマに関して、7グループに分かれてディスカッションを行った。</p> <p>11/13（月）～24（金）の期間で、受入が可能な14事業所を対象とした事業所見学会を開催中。</p> <p>【今後の方向性】10・11月に開催した座談会（現場職員向け）および事業所見学会を踏まえ、今年度はさらに座談会（管理者向け）を開催し、B型事業所において起こりがちな経営と現場支援の乖離が生まれないようなサポート体制の構築を目指す。可能であれば、工賃向上と質の高い利用者支援に精通した講師を招聘し、講演会も併せた座談会を実施する。</p>

No.	※※	R5年度 目標	4月～6月の目標	4月～6月の振り返り	7月～9月の目標	7月～9月の振り返り	10月～12月の目標
12	事務局	<p>① 障がい児者の災害時の対応について、モデルケースを選定し避難計画作成と避難行動訓練の実施に取り組む。市町にて、災害時の避難行動要支援者名簿への登録を推奨し、登録者の個別避難計画の作成に取り組んできたが、障がい児者の登録、計画作成はまだ進んでいない。また、協議会身体障がい者支援部において、被災経験のある障がい福祉事業所の職員を講師に研修会を開催したり、相談支援部会では、緊急時・災害時の対応プランの作成などの促進に取り組んできたが、まだまだ災害時に備える取り組みを推進していく必要がある。</p> <p>そこで、令和4年度、協議会全体の取り組みとして災害時の対応について協議することとし、運営会議を中心に検討を続けてきた。そして令和5年度は、協議会全体でモデルケースを選定し、そのモデルケースについて、避難計画の作成と避難行動訓練の実施に取り組む、確認された課題を運営会議を通じて市町関係部署と共有していく1年とする。</p> <p>② 令和4年度に引き続き、障がい児者の権利擁護に関する取り組みをさらに推進していく。</p> <p>意思決定支援の重要性について圏域内関係者への理解を促進していくために、令和3年度より意思決定支援ワーキンググループをつくり、協議を始めた。令和4年度は、抽出された好事例をもとに研修会を開催したところ、多くの方の参加があり、関係者の意思決定支援の重要性についての関心の高さを感ずることができた。</p> <p>また、令和4年度は、障害者虐待防止法の改正により各施設・事業所に障害者虐待防止研修の実施が義務化されたことから、小規模事業所を対象とした虐待防止研修も実施した。</p> <p>権利擁護に関する取り組みを単年度で終わらせるのではなく、さらに推進していく。</p> <p>③ 目標①、②を推進することと各部会の活動を通じて、関係者に協議会の活動や取り組みについてひろく知ってもらう。</p>	<p>① 災害時モデルケースの対応 災害時対応への取り組みについて、モデルケースを確定し、担当相談支援専門員等で構成する検討会を開始する。今後は、その検討会で進捗のスケジュールを決めて情報共有、進捗管理を行う。</p> <p>② 権利擁護に関する取り組みの推進 昨年度の意思決定支援研修を協議会意思決定支援検討会にて振り返り、運営会議にて報告し、今年度の企画案を策定する。</p> <p>③ 災害時の取り組みを推進すること で、市社協、健康福祉総務課などに對しても協議会の取り組みとして行っていることを知ってもらう。</p>	<p>① 災害時モデルケースの対応 ・6/19、21に8ケースの担当相談支援専門員と主任相談支援専門員、市社協等に集まっただき、検討会を実施し、それを市健康福祉総務課と障がい福祉課へ報告した。検討会では各モデルケースの概要を共有し、避難行動の方向性について意見交換できた。</p> <p>② 権利擁護に関する取り組みの推進 5月12日の協議会運営会議に今年度の意思決定支援研修会の企画案を提出し、今年度は、11月に基礎編、3月の実践編を実施することが決定した。</p> <p>③ 災害時モデルのケースについて、検討会を開催することで、よりひろく協議会の活動を知ってもらうことができた。</p>	<p>① 災害時モデルケースの対応 ・災害時対応への取り組みについて、検討会を中心に、計画作成、担当者会、避難行動の体験等と取り組みを進める。またその進捗を運営会議に報告してもらう。また運営会議ではこの取り組みの終了後、この課題をどう取り扱うかを議論する。</p> <p>② 権利擁護に関する取り組みの推進 ・意思決定支援実践編研修で扱う事例及び演習の内容等について検討を進める。</p> <p>③ 協議会の活動などを広く知ってもらうために、協議会HPの更新と変更についてすすめる。</p>	<p>① 災害時モデルケースの対応 7～9月にかけて8ケースについて災害時の対応の取り組みを進めてもらい毎月の検討会で報告、情報交換し合った。</p> <p>② 権利擁護に関する取り組みの推進 ・意思決定支援実践編研修で扱う事例及び演習の内容等について検討を進めると同時に基礎編の企画立案を行った。</p> <p>③ 協議会HPについて随時更新を進めた。</p>	<p>① 災害時モデルケースの対応 10月頃の検討会を最終の検討会として実施した。</p> <p>② 権利擁護に関する取り組みの推進 ・11月6日（月）意思決定支援実践編研修を実施し、57名が参加した。引き続き、実践研修の企画立案を行う。</p> <p>③ 部会の活動を中心に協議会の活動をより広く知ってもらう、また参加してもらえるように、協議会の会則等を見直す。現在の会則の再確認をして、修正案を提示する。</p> <p>④ これまで協議してきた「グループホームから退所して生活する方を支援する際の課題としてどのようなものがあるのか、また、克服するためにはどのようにすべきか」という点に今後もフォーカスして議論を展開しても興味を示す事業所が少数になることが見込まれ、議論が活性化しない可能性がある。そのため、まずは、グループホームの担当者が集まる機会を設けて、困りごとや事業所が協力して取り組むべきことができないか検討する。</p>